

同窓会報 興学

発行所
山形県西置賜郡
小国町大字岩井沢
621番地
小国高等学校内
電話(62)2054
小国高等学校同窓会
事務局



置賜地区吹奏楽コンクール会場にて(長井市民会館)

会長あいさつ

小国高等学校同窓会会長

安部 昌 晴

(昭和四十年度卒)



会員の皆様にはますます
ご清祥の事とお慶び申し上
げます。

昨年の同窓会総会の席上、
前田中会長の後任として会
長に選出されました。大変
な重責ですが、母校への思
いもありますので、力不足
ではありますがお受けする
ことといたしました。

わが母校は、昭和二十三
年五月二十二日小国小学校
の片隅に「山形県立小国高
等学校」と木製看板が打ち
つけられて、誕生したと聞
いています。今年度六十五
周年を迎えました。

私の高校生時代は高度成
長期で、東京オリンピック
を招致し、新幹線が開通す
るなど目を見はる発展を遂
げました。団塊世代の人々は、
こぞって東京、関東方面に
向かった時代でもありました。

当時小国高校は、普通科、
林業科、農業科があり、普
通科は、工業コース、家庭
コースに分かれ生徒数も多
く活気に満ちあふれていま
した。

現在の母校は、小中高一
貫教育を継続し十三年目を
迎え、アメリカへの修学旅
行や短期留学などの国際教
育、情報処理検定一級合格者を
今年度も三名を出した情報
教育、大学教授との研究活動、
地域文化の推進など多くの
特色ある取り組みをして
います。ここ数年は、山形
大学工学部や地域教育文化
学部など国公立大学への進
学者が増えていることは素
晴らしいことと思います。

小国高校は、これまで教
育目標に「自律・忍耐・向
上」を掲げ実践教育を行な
っています。更なる向上を
目指し学習できる環境を整
えるため、同窓会では物心
両面において支援してまい
りたいと思います。

今年度、生徒からの要望
もあり、吹奏楽部にティン
パニ三台を同窓会より寄贈
させていただきました。

皆様、今後とも同窓会そ
して母校に対するお力添え、
ご支援を賜りますよう心か
らお願い申し上げます。

ごあいさつ

創立六十五周年、
「興学」の歩み

小国高等学校校長

宮野悦夫



小国高等学校は、四月の入学式で新入生三十九名を迎え、全校生徒数百三十八名となりました。これは平成十七年度からの九年間では二番目に多い生徒数になります。そして卒業生総数は六千五百五十八名となりました。創立六十五周年の今年度、新会長の安部昌晴様はじめ、同窓会の皆様には、母校の教育活動と後輩の育成のため、物心両面にわたり格段のご協力を賜りました。心より御礼申し上げます。

小国高校の大きな目標は「生徒一人ひとりが主役となつて輝く教育」です。その成果は、授業に、行事に、様々

な活動に現れ、良き伝統を堅持しております。三年生の進路では、十二月初旬に就職三十六名、進学二十二名全員が見事に自分の進路を百%決定しました。町内就職十九名、西置賜方面九名、計二十八名が地元就職することになりました。若者の地元定着において、大きな貢献を果たしており、皆様のご支援に感謝申し上げます。



林業科第1回卒業生寄贈 校長室壁掛け

去る九月、同窓会より楽器ティンパニ三台を寄贈いただきました。吹奏楽部は各種コンテストで頑張っておりますが、町内でのボランティア活動でも大活躍しております。また、同窓生の横山季幸様からは、生徒の読書活動の充実ということで「横山文庫」として多大なる援助をいただきました。本校の生徒一人当たりの読書冊数は、県内高校の中でもトップクラスです。こういった活動においても目覚

ましい進歩がありました。

本校の宝物に、上杉鷹山公直筆『興学』の掛軸があります。十一月、米国のキヤロライン・ケネディ新駐日大使は、故ケネディ大統領が上杉鷹山公を称賛していた、ということ講演で触れました。このことで日本中が、大いに盛り上がりつつあります。本校においてもこの機に『興学』に思いを寄せ、「興」の字義である四つの手で力を合わせる、協同して何かをおこなう、ということをしつかりとかみしめ、さらなる学びを興隆させていきたいと思ひます。

褒章授章者紹介

叙勲受章の

栄に浴して

加藤治郎右衛門

(昭和二十八年度卒)



平成二十五年春の叙勲で「瑞宝小綬章」の栄に浴し光栄に思っています。

秋の叙勲では同級生の舟山三男君(山形県警)、前年春の叙勲で小池清隆氏(警視庁)相前後して同省の栄に浴した。知る限りでは県内高校では例のない特筆すべきことではないかと、密かに誇りに思っています。

昭和二十八年四月、米の配給通帳を持参し学生服で警察学校に入校した二十名の同期生と六カ月間の新任教育を受け、各警察署に配属された。

私は山形市警察署に配属され、山形駅前交番勤務となり約一年二カ月勤務、その後、山形市中心部の七日町交番所に配置転換し、ここも一年二カ月で内勤専務者となった。交番勤務の二年半では当初市内地理教示に戸惑い、夫婦喧嘩の仲裁に戸惑い、一斉電話を受け損なうなど冷や汗三斗のお巡りさんだった。

それでもこの間、指名手配被疑者の逮捕、地域防犯組合の結成、病院内給与窃盗犯の検挙等思い出の多い貴重な経験を積むことが出

来ました。

日本は敗戦後の廃墟から経済を中心に国力の回復に邁進し、東京五輪を開催出来るほどの驚異的な勢いで世界第二位の経済大国となった。

しかしその一方では

- 交通事故の多発
- 犯罪の増加、広域化
- 薬物犯罪の増加
- 暴力団の増加、凶悪化
- 大学紛争の多発
- 過激派集団による凶悪な爆弾テロ事件の多発

等、こうして振り返ってみると、改めて激動の時代に寝食を忘れ、これらと対決しながら職務に邁進してきたことに感慨深いものがあります。

平成四年三月山形警察署三回目の勤務となり、山形警察署長で退官となりました。この間、職場を共にした皆さんからの指導助言は勿論、何より県民の皆さんから警察を信頼し、温かい支援を惜しみなく送っていただいたお陰で、職務に精励し得たことに感謝の念と誇りを持って、今日を迎えることが出来たことが、幸せの極みであります。

叙勲を受章して

小池 清隆

(昭和二十八年度卒)



をお手伝いする団体で十年間お世話になり、平成十五年の春退職しました。

叙勲受章の知らせ

山形県立小国高等学校の在校生・卒業生及び校長先生はじめ教職員の皆様、小国高等学校の運営や学習、及び諸活動にご精進頂き深く敬意と感謝を申し上げます。

私は昭和二十八年に母校を卒業、その秋に警視庁に就職し四十二年間勤務し、現在は八十歳目前で浪々の身で東京に住んでいます。昨年秋に母校同窓会報担当者より「平成二十四年春の叙勲を受章されたと聞きませしたので、同窓会報（興学）に寄稿を」とのご依頼の電話を頂き、投稿しました。

昭和二十八年十月警察学校に入校以来警察署、機動隊、警視庁本部など十八所属を経験し、四十二年間勤務し平成五年春に退職しました。第二の仕事は、警察活動



平成二十四年四月二十八

日に警視庁人事課から「叙勲が発令されました。種別は（瑞宝小綬章）です」との事でした。叙勲の伝達式とは、拝謁伝達式は各所属省庁毎に行われ、警察関係は国家公安委員長名で五月三十日午前十時三十分から行われました。

天皇陛下の拝謁は同日午後一時三十分から皇居宮殿の「豊明殿」で行なわれます。

とご案内頂き、夫人同伴で緊張の中にも穏やかな雰囲気にも包まれて進行することが出来ました。受賞者と夫人が一堂に整列して、天皇陛下が一段高い壇上にお立

ちになられ拝謁のうちに「皆

さんは夫々において崇高な仕事を成し遂げられてご苦労でありました。今後とも健康であらんことを願います。」

旨のお言葉を賜り厳かな気持ちやら感激をしつつ宮殿を後にすることが出来ました。

自分は「この受章に恥じない心と日常生活を正して生きなければならぬ」と決意した次第です。

おわりに、在校生の皆さん明るく楽しく元気良く頑張りますように。

皆様方のご健闘をお祈りいたします。

瑞宝単光章を

受章して

益田 勝雄

(昭和三十八年度卒)

同窓会員の皆さんこんにちは。私は昭和三十八年度卒業ですから丁度半世紀となりました。

さて私事ではありますが、この度、平成二十五年度秋の叙勲に際し瑞宝単光章の栄に浴したところ同窓会事務局より寄稿の依頼を受け、大変名誉なことに気付かず、



自宅にて

返事に戸惑いましたがお受けすることとなり、苦手な文章を綴ることとなりました。

私は広報おぐに紹介された様に、昭和四十二年六月に小国町消防団に入団し平成十七年まで三十八年間消防団員として頑張りました。

私は高校卒業後、地元の企業東芝セラミックスに勤務していました。三交替の傍ら非常時の事故現場にはいち早く出勤したものです。

今となって見ると、小国高校の教育スローガンに掲げている自立・忍耐・向上のひとつに近づけたのかと、この消防功労賞を受賞して思っているところです。

また、地道に長く務められたのも家族の理解、職場の人々と地域とのコミュニケーションがうまく進められたからかと思えます。

これからこの叙勲に恥じない為にも、地域活動に微力ながらお手伝いをやっていきたいと思っています。

私も卒業して半世紀、昭和三十六年から三十八年当事ですから、家から通学できなかつたので、寮に泊まることにしたのです。最近知ったのですが興学寮の名前は米沢の藩主、上杉鷹山公直筆の掛け軸「興学」の由来と聞いて、大変ゆかりある寮で学校生活を送ったのだと、今になり実感しています。

いまや小国高校もグローバル的に国際教育や情報教育、地域文化学など、ユニークな学習活動を取り入れ、町民報告会などで、いきいきと報告する高校生の姿は頼もしく思います。つい最近の報告会、第八回目という事ですが、日々進化が見られる学校ですが、中でもアメリカ短期留学、英語教育の成果であるALTの先生とのマンツーマンでの英語会話は目をみはるものでした。卒業生六千人も輩出している小国高校ですから、存続のため同窓生として応援していきたいと思っています。

おたよりコーナー



社会への

限らない奉仕

(旧姓 嵐田)

新国 光 栄

(昭和四十一年度卒)



同窓会の皆様ご無沙汰しております。私は平成二十一年三月に米沢市役所を定年退職し、現在は一市民として悔いのない毎日を送っています。

高校在学中は諸先生はじめ小国の皆様には大変お世話になりました。また、色々な思い出もありました。東京オリンピックの聖火ランナーに参加したことや、憧れの舟木一夫ショーが学校の体育館で行なわれたこと、新潟地震で米坂線が止まり越後屋旅館に二泊したことなど。また興学寮生活で今

は時効ですが、よく安部作蔵先生に叱られました。特に私は菊池忠蔵先生には入学当時から進路就職先までご指導いただきました。私にとって、小国の親父でした。高校を卒業して四十八年

になりますが、激動の半世紀でした。多くの人々に助けられ支えていただきました。今は世間への恩返しのため奉仕活動に参加しています。

ごく当たり前のことですが、地域のラジオ体操から始まり小学生登校時のあいさつ運動や下校時の安全見守り隊、高齢者一人暮らしの訪問、各施設などの慰問などをやっています。これからも体の続く限り次の世代を継ぐ子どもたちのためにも、社会に貢献していきたいと思っています。

私もまだ六十五歳これからは人生の後半戦と思っています。

人はただ年を重ねるから老いるのではない、情熱を失った時初めて老いるのです。私の現況はこの位にして、

小国高校生の皆さん町の特色である小中高一貫教育を実践している県内唯一の高校です。素晴らしい学習環境だと思っています。先人先輩が築いた伝統ある小国高校の歴史と未来がいつまでも続くよう目標に向かって頑張ってください。将来の小国町を担う人材になれるよう期待しています。

最後になりますが、同窓会会長さんはじめ役員の皆様、そして学校関係者の皆さん本当にご苦勞様です。

これからもより一層のご活躍とご健勝を心からお祈り申し上げます。追伸

(なせば成る、なさねば成らぬ何事も、成らぬは人のなさぬなりけり)

(たった一度のこの人生、たった一つのこの生命大切にしてください。)

北の大地より



(旧姓 齋藤)
茂古沼 和子

(昭和四十五年度卒)

毎年楽しみにさせていただいておりましたお便りコ

ーナー。原稿依頼の電話を受け、恥ずかしながら参加させていただく事となりました。

山形を離れて早四十二年、こちらでの生活が倍以上になりました。

私は文通が好きで、よく手紙を書いていました。私よりも早く都会に出られた友達から、あなたの住むところではないよ、と助言されました。それから憧れの札幌を目指しました。ちょうど札幌オリンピックが終わった後で、住環境街並共整備されていて、「虹と雪のバラードの歌」にぴったりのイメージ通りで、とても新鮮に思いました。

雪が多く毎朝のように除

雪をした年もありました。小国で育った私は、除雪も好きな方でしたので助かりました(笑)。

四年後、夫の転勤で寒さ厳しいこの地(北海道音更町)に移り住んで三十八年になりました。札幌に比べて、気温が十度近く低く、マイナス二十度前後の日が何日もあり(最近はやいナスと二十度以下になる事はありません)、朝はバス待ちなどしていると足が痛かったです。気温が低すぎて降雪が少ないのには驚かされました。長所としては、年間の日照時間が多い方で、最近は大変太陽光発電設備の設置が盛んです。

私事ですが、今の仕事に付いて二十五年が経ち、あと数年後の退職まで無事頑張ればと奮闘中です。勤務するまでは未知の世界(障害者施設)でしたが、今はやりがいを感じられるようになって、一日一日自分なりに精一杯仕事に集中しているつもりです。家族、職場の皆さん、利用者など色々な方々に支えられながら、いつも感謝の気持ちを忘れずに、これからも納得出来



る仕事、そして人生を送れたらと思っています。

退職後の私の夢は、ささやかですが、小国から関東方面へと季節の良い時期に友達巡りをする事です。

最後に、小国高校のますますのご活躍と皆様のご健康をお祈りいたします。

小国にこころ



(旧姓須貝)
村 上 由美子
(昭和五十四年度卒)



デザインの特設学校に進学が決まり、上京したのが三十四年前。あっ！という間に年をとりました。現在は旦那、私、息子、猫の、三人プラス一匹で東京の練馬区に住んでおります。フリーでイラストやデザインの仕事などをやっております。小国には一週間ほどですがお盆の頃に帰ります。東

京のセカセカした生活から解放され、のんびりと魂の洗濯をさせていただいております。小国校の同級生と会うと昔に戻り、気分は十七八の頃のまま(嫉も白髪も増え、どう見てもおばさんですが)。同級生はいいですね。何年経っても変わりません。小国弁で「しゃべる」とホッとします。小国で生まれてよかった、故郷があつてよかったと心底思います。

息子は小国生まれの東京育ちですが小国が大好き。高校進学時、「小国高校に進学しようかな」なんてインターネットで小国高校のホームページを閲覧していました。息子の携帯電話の待ち受けは小国の実家付近から撮った「飯綱橋あたり」の風景です。

この原稿を書いているのは一月ですが、こちらの冬は寒いだけで、ほとんど毎日青空。小国の冬を考えるとしつとしない程の青空です。いつもこの時期になると、空を見上げて小国の冬を思うようになります。

温暖な東京は冬、とても暮らしやすいです。雪下ろしもなく、吹雪もないの

で出歩くのも楽。足下を気にせず歩くことも出来ます。陽も差すので洗濯物もほぼ毎日外に干せます。でも、私は小国の冬が好きです。「冬来たりなれば春遠からじ」この言葉は小国に生まれ育った者にはひしひしと実感できる言葉だと思います。

長い冬に絶え、春を迎える喜び。雪国の人の特権です。心の底から湧いてくるなんともいえない高揚感。春になると「小国の春」を思い出し、羨ましくなります。

三十四年前、私が住んでいた時と今では、町も人も少しずつ変わっているようですが、小国の山河は変わらずにあつて欲しいと願っています。

楽器寄贈に感謝

小国高等学校吹奏楽部部长

二年二組

白川 朋 絵



この度は、小国高等学校同窓会の皆様から、ティンパニ三台を寄贈していただき、大変感謝しております。

小国高等学校吹奏楽部は、現在二年生三名、一年生八名の計十一名で、日々部活動に取り組んでいます。高校から吹奏楽を始めた人も多く、実力や経験はまだまだですが、小国町の石楠花まつり、町の消防演習での、小国中学校との合同演奏、各種大会、他校吹奏楽部との合同演奏会など、様々な場面で演奏をさせていただいております。

今年の夏には、三年生が最後の出場となる全日本吹奏楽コンクール(の置賜地区予選会が開催されます。例年以上に一生懸命練習に励み、県大会出場が目標が達成できるように頑張つていきます。

さて、今回同窓会の皆様に寄贈していただきました「ティンパニ」という楽器は、打楽器のひとつであり、吹奏楽だけではなく、オーケストラの演奏にも使用されています。太鼓の一種ですが、小太鼓や大太鼓とは違いティンパニは、音程の調整が

できる楽器です。主に大きな異なる四台のティンパニを用いて演奏します。十五世紀ごろからオーケストラに用いられ、今では曲のアクセントとなる部分を担当したり、ソロパートに用いられたりすることもあります。

私達吹奏楽部は、人数も少なく、練習の環境も決して満足とはいえない状況ですが、限られた環境の中でも、精一杯自分の実力を発揮し、同窓会の皆様、地域の方々に少しでも恩返しができる嬉しです。

これからも、小国高校、そして、吹奏楽部の応援をどうぞ宜しくお願いいたします。



贈呈式での会長・役員の皆さん

恩

師

回

想

ほんの少し前のこと

井上 恭一先生

平成十一年～十九年



教員として四校目、四十代のほぼすべて、九年間お世話になりました。振り返ればあつという間とは言うものの、けつこうぎつしり詰まっていた日々を思い出します。

それまでの私は、二十年のうち十七年が学級担任、クラス中心の見方・考え方で勤務していました。小国高校では、学年や学校を見渡した仕事のあり方について教えていただいたと感謝しています。とは言え、生徒と直接関わる担任の先生方のたいへんさを前にしながら、結局は「から元気」で毎日過ごしていたように思います。たとえば、同時多発テロの秋、初めて計画された

海外修学旅行は実現しませんでした。次の年、我が学年が小国高校初のロサンゼルス行きとなり、前例のないことを行いたいへんさを実感したものです。考えてみると、あの頃も今も、未熟です。当時の諸君が元気で働いているという知らせ、それが一番うれしいこの頃です。

また、小中高一貫教育を具体化するために様々な取り組みが始まり、定着して行く時期でもありました。「小中学校との交流授業」「地域文化学」「町民報告会」……継続と積み重ねの中で、一貫教育の成果が開花している今、先生方のご努力と情熱にしみじみと心を寄せています。

言うまでもありませんが、保護者の皆様、同窓会の皆様、地域の方々にはたいへんお世話になりました。教育のことだけではなく、生きるうえで知恵や術(すべ)まで教えていただいたと思ひ返しています。

「想定外！予餞会のミニモノ、卒業祝賀会での再演」「かど焼きパーティーからの搬送」



「幹事長の職責を果たせなかった職員旅行」「誰にも話せない現代文授業中の出来事」「長井行き代行車内で毎回交わされた激論」「ほんとうに遭難しかけた蔵王スキー授業」「(思い出すたび) みつともなかった！離任式」いろいろなことがありました。ろくに指導できない顧問を支えてくれた卓球部の面々にも、今は感謝の言葉しかありません。

転勤して、もうすぐ六年です。久しくご無沙汰しておりましたが、今年度は二度お伺いする機会に恵まれました。職員室の机の向きが変わっていることに、時の流れを感じたのは事実です。でも、「ほんの少し前のこと」、そこにまだ自分が座っているようにも感じたのです。

ありがとう小国高校

吉續 晴美先生

平成十二年～平成十七年



ついこの間と思っていた小

国高校での日々は、いつの間にか十年前になつていました。「連携型中高一貫教育」という全国でも珍しい取り組みをしている学校で勤務できることに感謝をしながらも緊張と不安でドキドキしていた私を迎えてくれたのは、生徒達の元気なあいさつと先生方の温かい歓迎でした。

学校行事の中で印象に残っているのは「学校林下刈り」と「スキー授業」です。

「学校林下刈り」での「マムシが出てきた時は……」と二股の木を使つての実演に不安になりながら山に入つていった記憶があります。それでも年を経るごとに、鎌の扱いや木の橋、山道にも慣れ、生徒たちと一緒に自然とのふれあいを楽しみました。

「スキー授業」では、保健体育の教員ではない私にもできるのか……と心配になりましたが、馬場高子先生のお陰でスキーは今では私の趣味になっています。生徒のみなさんは小さな頃から慣れ親しんでいることもあり本当に上手で、胎内も蔵王も安心して楽しく一緒に滑つたことを覚えていきます。

「英会話」の授業は一年生では二十五分授業を週四回行

うというもので、どのように進めていくか、英語科の教員とALTが頭を寄せあい、試行錯誤を重ねる日々が続きました。出来上がったプリントを使つて一生懸命に同級生やALTと話す姿に、また次の日から頑張ろうというエネルギーをもらいました。

「修学旅行に向けた取り組み」では、英語で小国町や小国高校の紹介VTRを作ったり、花笠音頭の練習をしたり等、生徒達と先生方が一つになつて旅行の成功に向けて頑張っていました。幸運にも初めてのアメリカ修学旅行の引率もさせていただき、入国審査や現地の高校生との交流会等を経験しながら英語への意識が変わつていく生徒達の姿を間近で直接見ることができたことは、今でも私の原動力になっています。

小国高校で過ごした時間は教員としての基礎を作った大切な時間であり、生徒、保護者、教職員、地域のみなさんに暖かく支えていただいた六年間でした。いつまでも感謝の気持ちを忘れず、微力ではありますが、これからも小国高校を応援し続けて行きたいと思っています。本当にありがとうございました。

アメリカ短期留学生報告

ベニスハイスクール

成長できた短期留学

三年二組 高橋 奈々



私は入学当初からの念願であったアメリカのベニス高校に短期留学をさせて頂きました。はじめは異国の土地で二週間滞在し、英語で生活する事に不安がありました。しかし、ホストファミリーに恵まれ本当の家族の様に温かく迎えて頂き、不安なく楽しく過ごすことができました。留学した中で外国人と日本人の違いを感じました。外国人は、日本人とは対象的に、意見があると即発言し、活発な意見交換を行います。自分の意見を共有しあうことができ

るという事は、更に自分の意見を深いものにでき、多くの考えに触れることができます。

また、慣れない英語で生活する事で、表現力の大切さを学びました。普段は授業でしか使わない英語も、実際に会話することで新たな使い方を学ぶことができました。さらに、英語を学ぶことに意欲を持つことができました。英語を使って会話し、コミュニケーションを取ることで相手はどう言えば伝えられるか考える



ファミリーと

が話すことができました。

本場の英語を肌で感じ、自ら積極的に話し、多くのことを吸収できたという事は、大きな前進だと感じています。留学を通し、語学だけではなく人間的にも成長することができ、アメリカという国や人々を寄り近くに感じられるようになりました。

今回たくさんの方々を支えられ留学をさせて頂き感謝しております。将来何かの形で小国町やお世話になった方々に、貢献できたらと思います。本当にありがとうございます。

留学の思い出

二年二組 渡部 美月



私にとって今回の短期留学は、自分を成長させる大きな体験になりました。

初めての外国だったので、アメリカに着いてからは不安でいっぱいでした。どうしていいかわからずとても

戸惑いましたが、私のホストファミリーはとても優しく迎え入れてくれました。とても明るい家族で、いつもホストマザーの歌声が家中に飛び交っていました。

私は英語が一番の得意教科で、人見知りをせず誰とも気軽に話せる自信がありました。しかし、日本語が全く通じない英語だけの世界に、自分ひとりで入った時に不安と恥ずかしさで素の自分を出せませんでした。

しかし、何度何度も聞き返し必死に理解しようとしたら、スピードにも慣れだんだんわかるようになっていきました。また、私が言いたいことに詰まると、周りの友達やホストファミリーはジェスチャーなどを交えて伝えようとしてくれました。私も知っている英語を並べ身ぶり手ぶりで一生懸命伝えました。すると会話に自然と笑顔が増え、毎日楽しく過ごすことができました。

私は二週間の短期留学で「恐れずやってみることを学べたと思います。最初にあった不安や緊張も言葉を選びながら話してみることで



クラスメート達と

で笑顔が増えたとし、より楽しむことが出来たのだと思います。また、自分の英語が伝わったという喜びから自信にもつながりました。自分の思ったことは素直に伝え正直に生活したいです。今回短期留学という機会を与えていただき、沢山の方々に支えられて貴重な経験ができたことを心から感謝しています。ホストファミリーとの出会いも大切にしたいと思います。とてもいい思い出になりました。機会があればまたロサンゼルスを訪れたいと思っています。今回お世話になった関係者の皆さん、本当にありがとうございました。

アメリカ短期留學生報告

イーストハイスchool

短期留学を体験して

三年二組 和田 梨里



今回の短期留学では多くのいい出会いがありました。出発初日からアクシデントに見舞われ、全てがスムーズに行き、楽しい思い出だけで終わったわけではありませんでした。しかし今こうして振り返ると、あの経験があったから成長できたのだと思うことばかりで、充実感を得ています。

過去の短期留学ではなかった飛行機の急な欠航でも、自分たちでフロントのスタッフに英語で質問し何とか現地に到着できました。また、荷物が届かなかった時には練習したフレーズが役に立ち、さらに偶然出会った日本語を話すことができる外国人の助けもあって解決できま

した。英語だけの世界だったので先生を頼ることもできず、自分の英語力が問われさらに臨機応変に対応する力も同時に試されました。修学旅行で海外は経験していたとはいえ、集団と個人では責任の重さが自分の中でまったく違いました。しかしその不安の中、後輩と二人で対応できたことで、初めて挑戦することへの恐怖心がなくなり、自分の英会話力にも多少自身が持てるようになりました。

ホストシスターのキムとは初対面にもかかわらず昔からの友達のように打ち解け仲良くなりました。今でもキムや友達になった人たちとメールのやり取りを続けています。自分のネットワークが広がったことを実感しています。

アメリカの学校は日本に比べて校則が緩く、自由な雰囲気全体に出ていて驚くことが多く新鮮でした。今までは日本の校則が厳しいと思うこともありましたが、逆にこのルールのおかげで私たちは今こうして成長で



生徒サークルグループのユニホーム

きるのだと考えるきっかけにもなりました。

私はこの短期留学で、自分の英語力だけで生活できたことに自信ができました。ずっと滞在していたいと思わせる仲間に出会えたので、二週間という短い時間で、たが、これが私の高校生活最大の思い出です。支援していたいただいた小国町、小国高校後援会・同窓会の皆さん大変ありがとうございました。また機会があればアメリカを訪れたいです。

短期留学に参加して

二年二組 笠原 芽衣



私が訪れたコロラド州デンバーは人々が優しく、自然に囲まれた穏やかなところでした。四人のホストファミリーは皆さん気さくで、笑いが絶えない毎日でした。全員で手を繋ぎ、キリスト教の歌を歌ってから食事をしたり、終末にはショッピングや外食に連れて行ってもらったり、乗馬をしたことは私にとつて大きな思い出となりました。ファミリーは意外なところもあり、するめや納豆をおいしいといつて食べてくれました。

滞在中は、イースト高校に通いました。アメリカの学校は朝が早く、七時半には授業が始まっていたので授業中食事を取っている人が多数いました。生徒たちは日本の高校生より活発で元気が良いと思いましたが、ピアスを付けている子や、髪を染めている子が沢山いて文化の違いを感じました。

またアメリカは十六歳で自動車運転免許を取得でき、登校手段は自家用車だということには驚きました。アメリカの学校生活は日本では考えられないようなことがいっぱい、とても新鮮な二週間でした。

初日、飛行機が欠航するという予期せぬ出来事には戸惑いましたが、先輩と臨

機応変に対応し、旅をするといった面でも成長することができました。

この留学は英語への挑戦でもありました。本場アメリカで自分の意思を伝えたり、自分からコミュニケーションを図ったりして、英語への関心が一層深まりました。それと同時に、英語をもっと話せるようになりたいと思いました。また国際友達ができたことは私の自慢です。高校生で大きな一歩を踏み出したことはこれからの自信になりました。

最後に、小国高校の特色の一つである短期留学に自分が参加できて本当に光榮です。小国町、後援会、同窓会ははじめ、関わってくださった沢山の方々に感謝申し上げます。ありがとうございました。



クラスメート

事務局だより

平成二十五年度の同窓会総会が、五月二十三日みよしや食堂で行われました。

一昨年行なわれました小国町町長選挙において、昭和四十八年度卒業の盛田信明氏が町長となり、来賓としてごあいさつをいただきました。町政にかける思い、意気込み、上杉鷹山公の言葉なども交え、これまでの心情など話されました。

県議会議員の小池克敏氏は、公務の都合により出席できませんでしたが、母校小国高校に思いを寄せたお祝いメッセージをいただきました。総会では、平成二十四年度事業及び決算、平成二十五年度事業計画、予算案などが承認されました。

役員改選年度にあたり、田中会長が体調不良により一期で退任されました。また、馬場一恵副会長、渡部和夫副会長が退任されました。新会長に昭和四十年卒業の安部昌晴氏が、新副会長に昭和四十二年卒業の佐藤悦子氏、昭和四十三年卒業で監事の木村三郎氏が就任されました。齋藤弥輔氏、岩沢ちか氏は留任となります。監事の後任に、昭和四十六年度卒業の小池克昌氏が決まりました。

この度、学校からの要望により、古くなった吹奏楽部の楽器の購入に助成いたしました。日頃の吹奏楽部の活動の頑張りに対して幹事会で満場一致で購入助成することが決定されたものでありますので、報告させていただきます。

平成二十六年創立記念式典講師に安部会長より推薦があり、前気仙沼市立小学校校長で現気仙沼市教育長の齋藤益男氏より「絆を深める教育活動の充実」と題して震災に関わった体験、学校が関わる状況や役割について講演していただくことになりました。

同窓会では、母校の更なる発展と次代を担う人づくりのため、出来る限りの支援を行ないたいと思います。会員の皆様のご理解ご協力をお願いいたします。

(記 駒澤)

平成24年度 同窓会会計決算書

収入の部

(単位: 円)

科 目	当初予算額	補正額	予算現額	収入済額	増 減	摘 要
会 費	1,000,000	0	1,000,000	682,240	△317,760	振込納入者手数料引金額
入 会 金	170,000	0	170,000	170,000	0	@5,000×34名
繰 越 金	341,034	0	341,034	341,034	0	前年度繰越金
繰 入 金	0	0	0	0	0	
雑 収 入	966	0	966	108,942	107,976	預金利子 アメリカ短期留学返金
合 計	1,512,000	0	1,512,000	1,302,216	△209,784	

支出の部

(単位: 円)

科 目	当初予算額	補正額	予算現額	支出済額	増 減	摘 要
需 要 費	30,000	0	30,000	4,600	△25,400	役員弁当代 会報発送経費
会 議 費	150,000	0	150,000	60,731	△89,269	各種役員会 諸経費等
通 信 費	300,000	0	300,000	125,108	△174,892	はがき・切手 23年度会報発送費込
印 刷 費	70,000	0	70,000	38,209	△31,791	総会チラシ、振込 用紙、封筒印刷
慶 弔 費	10,000	0	10,000	12,330	2,330	弔電等
教育助成費	360,000	0	360,000	270,310	△89,690	アメリカ短期留学 助成、皆勤賞記念品等
支部助成費	100,000	0	100,000	70,000	△30,000	町内地区 11支部
特別事業基金	0	0	0	0	0	
事 務 費	40,000	0	40,000	13,043	△26,957	事務局(用紙等) インク代
事 業 費	440,000	0	440,000	387,915	△52,085	会報発行等 花回廊種代等
予 備 費	12,000	0	12,000	0	△12,000	
合 計	1,512,000	0	1,512,000	982,246	△529,754	

収入決算額 1,302,216 - 支出決算額 982,246 = 通帳残金 319,970

※残金の319,970円は、平成25年度へ繰り越すものとする。

平成25年度 同窓会会計予算書

収入の部

(単位: 円)

科 目	本年度予算額	前年度予算額	比較増減	摘 要
会 費	1,000,000	1,000,000	0	年会費 @1,000×1,000名
入 会 金	295,000	170,000	125,000	卒業生入会金 @5,000×59名
繰 越 金	319,970	341,034	△21,064	前年度繰越金
繰 入 金	0	0	0	
雑 収 入	30	966	△936	預金利息等
合 計	1,615,000	1,512,000	103,000	

支出の部

(単位: 円)

科 目	本年度予算額	前年度予算額	比較増減	摘 要
需 要 費	30,000	30,000	0	用紙等
会 議 費	160,000	150,000	10,000	各種役員会経費
通 信 費	300,000	300,000	0	はがき・切手、 24年度会報発送費込
印 刷 費	80,000	70,000	10,000	総会案内 封筒印刷等
慶 弔 費	10,000	10,000	0	
教育助成費	390,000	360,000	30,000	アメリカ短期留学 卒業記念品
支部助成費	100,000	100,000	0	町内支部助成
特別事業基金	0	0	0	
事 務 費	50,000	40,000	10,000	
事 業 費	480,000	440,000	40,000	会報発行、花回廊等 65周年記念式典
予 備 費	15,000	12,000	3,000	
合 計	1,615,000	1,512,000	103,000	

平成3年度卒業 佐藤和広 (第四十三回)	平成8年度卒業 馬場貴久 馬場智久 (第四十八回)	平成14年度卒業 佐藤由衣 渡部理恵 本多やよい 高野史穂 (第五十四回)
平成4年度卒業 木村雅宣 (第四十四回)	平成10年度卒業 高井敏洋 齋藤与枝子 三島木かほる (第五十回)	平成16年度卒業 駒澤瑠美 (第五十六回)
平成5年度卒業 渡部淳 (第四十五回)	平成11年度卒業 伊藤敬太 (第五十一回)	平成18年度卒業 伊藤さゆり (第五十八回)
平成6年度卒業 安部奈緒子 齋藤達也 (第四十六回)	平成12年度卒業 舟山友浩 竹田一平 三島木さやか 藤田梨絵 加藤信 (第五十二回)	平成20年度卒業 伊藤あゆみ (第六十回)
平成7年度卒業 渡部由香 (第四十七回)	平成26年 二月二十四現在	

— 11 —



私は、入学をした時あいさつの声が小さいと感じ、昨年生徒会執行部の一員と

昨年は、ポスターや放送で節電の呼びかけを行ないましたが、今年はそれに合わせあいさつ向上の呼びかけをし、学校全体であいさつへの意識の向上を目指していきたいと思います。

先輩方が築き上げあげて

山形新聞(H26.1.11)に掲載された記事を転載